

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100607		
法人名	社会福祉法人福美会		
事業所名(ユニット名)	寿寿ソーラス(Aユニット)		
所在地	和歌山市福島898番6		
自己評価作成日	平成28年9月30日	評価結果市町村受理日	平成28年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成28年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様、それぞれの生活習慣、心身の状態に合わせ自分らしく尊厳を持ち、安心して暮らせる家庭的な場所を提供できるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「それぞれが自分らしく生活できる空間を作る」という理念にそって、職員が利用者それぞれにあった支援を行うための話し合う機会を設けて、支援している。また、外部研修の機会も多く、例えば身体拘束など法人での委員会があり、その研修内容を全員に伝達する工夫も行われている。排泄の自立についても、個々の状態にあわせて、夜間もなるべくトイレ介助を行うなど、職員の頑張りがみられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、分かり易い言葉で、職員が意識出来るようフロアの見えるところに掲示している。理念の内容は職員全体に説明し、実践につなげている。	新入職員にはマンツーマンで指導者がつき、理念の意味をしっかりと伝えている。また、毎日のミーティングや会議で意識的に伝え、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出等を通じ地域の人と触れ合ってます	近くにある同じ法人での夏祭りやクリスマス会等は地域の小学校、保育所、自治会等にも広報を行い、地域の方が楽しみにしてくれている。自治会には未加入ではあるが、施設の前の溝掃除を行うなど、地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会や地域に対し、介護の説明(サービス内容等)行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状態や事業所の取り組みなどを報告し、意見を頂いて、自施設のサービスの向上に生かしています。また入居状況などの報告も行っています。	運営推進会議は、2か月に1回開催され、施設の運営状況等の報告がなされている。しかし、家族会や地域の代表の参加が難しい様子である。	ご家族や自治会、ご近所の方に運営推進会議の内容報告を記載したものを送付するなど、施設の状況を伝えることで、関心を持っていただけるような工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢者おむつ給付事業の手続きや、また入居者様の状態を報告し、わからない事についても指導して頂いています。	包括支援センターだけではなく、市役所の社会福祉部等にはケアの内容、制度についての問題確認など、電話だけでなく、訪問して資料をいただくなど、連携に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員には禁止対象となるケアはしない様、心がけ、また理解するよう職員に研修、実施しています。	法人として身体拘束についての委員会があり、最近の会議内容を、施設の職員に、内部研修として伝えている。待ってくださいとの言葉には、その理由と待ってもらう時間を付け加えるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修を行い、事故報告書に挙げ、自己検証、究明を行う。また管理者、職員は意見交換を行い、お互いの精神状態のケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居様におかれては、日常生活自立支援事業、成年後見制度制度を利用しておられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約説明書を持って丁寧 に説明しています。また契約後も電話などで説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、家族様の意見は直接職員に申し 出いただくか、相談窓口で連絡していただ き、会議や申し送り等で実施している。	毎月の利用料金の支払いを直接持ってきて頂くなど基本的に来所の機会を増やすようにし、その際、利用者の様子を話したり、家族とこれからのことについて話し合い、家族の要望や意見を伺うようにして、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見がある時は、ミーティング、職員会議等 で話し合う。又伺い書や企画書を挙げて上 司に相談をする。	月例会やミーティングだけでなく、休憩室でもなるべく職員の話聞く努力をしている。最近職員の希望で車いすごと測れる体重計を購入した。また、シフトについての意見や勤務時間についても、働きやすいように改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則にのっとり、給与水準、給与改定 を行っています。また努力や実績は各職員 に聞き取りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内、外にかかわらず研修に参加し知識や技 術を身につけ、職場においてはミーティ ング等の機会を利用し知識、技術の向上を行 っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは現場を行き来し、意見交換など して施設向上に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用する、しないに関わらず、話し合う機会を設け施設の説明、考え方などを話すために、まずは時間を取って頂いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずはどのような生活を送ってらっしゃるか聞き取りアセスメントシートを利用し将来どのようにしていきたいのかを、望みを聞きます。又入居するまで介護面でのアドバイスもしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントシートを利用しニーズを確かめ、計画を立て、入居者様、家族様に複数の計画を提案し、同意を得る。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はユニホームを利用しない。同じものを食事したり共に家事等を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出入りはいつでも自由に出来ます小さな出来事でも意見交換を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様、家族様に許可をもらっている人については、いつでも出入りは可能です。	馴染みの知人や、家族との外泊や外食、お墓参り等も行っている。携帯電話や手紙も自由であるが、携帯電話など時間帯と回数が頻繁になるときは家族と相談し、状況と内容で判断することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	基本席は自由ですが、気の合った入居者様同士席と一緒に誘導し余暇を過ごしていただく。イベントなどで親交を深めて頂けるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には本人様や家族様にその後の生活についての相談等あれば連絡していただけることも可能だと説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別的にニーズを聞き入れ、カンファレンス等にて検討、実施している。	本人の意向がはっきりしないときは、職員同士で確認し、話し合いを行い、さらに検討するなど、利用者の生活歴や普段の様子で判断したり、家族に相談して思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、家族様にどのような暮らしをしていたかを聞き、職歴、性格、趣味等を聞き取り、入居の際には愛着ある者などを持ち込まれるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシート、日課表を作成し入居者様にサービスを行う。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的、適宜にケアカンファレンスを行い、本人様や家族様の意向を聞き介護計画を行っている。	ドクターノート・訪問看護ノートなどの連絡ノートを参考に、短期目標の評価や家族の意見を訪問時や電話時に聞き、担当者が複数でプランを作成し、利用者に即した内容を検討し、作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様一人ひとりにケア記録作成し、全介護職員がケア記録を作成している。情報共有は、業務日誌、ミーティング等で実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、家族様が、その都度希望があれば、取り入れる様検討していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他の地域の方や自治会の方との協力を出来る様に心がけていますが今のところ出来ておらず、今後地域の人に声をかけたりするよう検討していきます		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、家族様等の希望により主治医による往診を行っています。また主治医の診察結果等は家族様に連絡をしています。必要に応じ各専門による診察、治療を行っています。	事業所の協力医が2週間に1回往診し、健康管理を行っている。入居時に本人や家族の希望があればなじみの医院に家族の協力を得て受診できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常状態を看護ノートに記入し看護職に伝えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、入院中医療機関に訪問し、入居者様の状況、グループホームの受け入れ態勢の説明、協議を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合医師を通じて家族様の希望を聞き、その中で、できることを検討して、対応してます。	看取りを行う方針ではあるが、まだ、経験はない。重度化した場合、その都度家族や医師とのカンファレンスを行い、対応していきたいと考えている。そのため、職員への心構えを含めた研修を近々行う予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに沿って訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、それに沿って職員が動けるようにしています。災害が起こった場合、食糧飲料水の備蓄はしてます。	年2回職員と担当の警備会社と夜間想定避難訓練を実施している。連絡網や自動通報システムなど、職員は理解できている。施設のガラスは飛散しないもの、その他は難燃性の物を使用している。水や食料の備蓄はしている。	近所に昼夜とも人が少ないため、協力を依頼するのが難しい様子ではあるようだが、地区の役員等に協力依頼の声掛けをしていくなど、協力体制の築きを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前は家族様の望む呼び方をする。基本はフルネームで呼んでいる。お風呂場など服を脱いでいるなら、タオル等で隠す配慮をしています。	同姓の方がいるので、家族に相談し、下の名前で呼んでいる場合もある。トイレなど、さりげなく行けるように気を付けている。個人情報の取り扱いはパソコンなど職員各自暗証番号を使用し、書庫は施錠するなど、利用者の人格やプライバシーを尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	サービス提供場合は必ず声かけをし、同意を得てから行っています。日常生活でも選択肢を示し、自身で決めていただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様に声かけをし、意向を確認し、個々のペースにあわせています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の好みを聞き、身だしなみやおしゃれの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に嗜好調査を行い、好みの把握をし、給食会社とも会議を行い実施できるよう努めています。	利用者や家族に食事についてアンケートを取り、好みを把握し、実践している。利用者には、おしぼりたみ等の手伝いをして頂いている。月1回は簡単なおやつを作りや飾り付けを一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取は記録し、少ない場合には適宜に補っていただくよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、眠前には口腔清拭を行い、状況に応じて歯科医、歯科衛生士の指示を仰いでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を元に排泄パターンを把握し排泄介助を行っています。	利用者一人ひとりの排泄記録を基に、声掛けを行い自立に向けて取り組んでいる。夜間でも、トイレ介助をなるべく行うように自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表を作成し状態を把握、排便がない利用者様に対しては、水分をよく摂って頂き、腹部マッサージを行い、トイレで腹圧をかけたりし、主治医にも相談しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事前に入居者様に希望を聞き入浴時間、頻度を決め、実施しています。	入浴時間や回数は入居時に話し合っている。入浴を楽しめるよう季節に合ったゆず湯なども行っている。また、利用者の状態に合わせて、家庭浴に取り外しのできるチェアー浴を設置し、個々にそった支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の生活パターンに合わせて休息、睡眠は、とれるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬剤師より薬の内容(用法、容量)の説明を受け、薬情も理解した上で服薬していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から趣味、嗜好を把握し能力にあわせ支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候がよければ散歩などし、四季折々には外出行事を設けている。	お花見や夏祭りなど地域の方の参加する場所に外出できるよう支援している。目の前に通行量の多い道路があることなどで、散歩ができにくいときは、玄関前のプランターの野菜や花の水やり時に、外気浴や気分転換ができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の希望や能力に応じて協力していく様ですが身体機能の重度化、低下が進み今は外出し、お金を使うことが無くなっている為ご家族様に協力して頂いたり入居者様が所持しているお金を希望で職員が代わって買い物を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在では手紙や電話のやり取りを希望している入居者様はいませんが、以前は家族様や友人地域の方々とやり取りが途切れない様に支援していました。又今後希望される方がおられましたら支援していきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間は木目を基調し、掃除、整理整頓を行っている。	リビングの前にサンルームがあり、部屋全体が明るい。リビングだけでなく、玄関や廊下にもソファーがおいてあり、いつでも居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファーを置き、くつろげる空間を用意し、利用者様同士お喋りできる空間を提供。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた家具や趣味の物を持ち込み、安心して、居心地良く過ごして頂く。	ナースコールやテレビの配線は決まっているものの、家具やベッドはすべて自宅からの持ち込みで、本人や家族が話し合っ、居心地良く過ごせるように配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やお手洗い等の表示物は大きくし、見渡しのいい空間設計。安全に過ごせるようバリアフリー、手すりを設置し、自立した生活を送れる工夫をしています。		